

# 令和3年度 セミナー 教科リフレクションシート

実施日	教科	授業者	単元名
	音楽科		いろいろな音色を感じ取ろう ～祝典序曲～

## ■本時で目指す子供の姿

オーケストラのすごいところを話し合う活動を通して、楽器の音色や旋律などの働きが生み出すおもしろさと、聴きとったこと・感じ取ったこととの関わりに気付き、曲全体を味わって聴く姿

## ■本時のポイント※教科提案と関連のある本時の手立てを記載

### I：問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス

本題材では、子供たちは初めてオーケストラで演奏される楽曲を聴くことになる。1回目の祝典序曲の鑑賞を通して、オーケストラで演奏された楽曲が今までに聴いた曲と比べて、様々な楽器の音色や重なりを聴いたり、迫力を感じることができると等「オーケストラのすごさ」を感じることができるようになる。また、子供たちはオーケストラの「何が」すごいとなるのかを考えたり、見つけたいという思いにつながるようなプロセスを踏んで、本時の課題を設定する。

### II：本質的な気付きに迫るための発問・問い返しの工夫

祝典序曲を聴き、「祝典序曲のすごいところ」に手を挙げる活動を取り入れる。「どうしてこの部分（手を挙げたところ）がすごいと思ったのかな」という発問を通して、個人で見つけた「すごい」を相手に伝えたり、友達の「すごい」を共有することで、楽器の音色や旋律等の音楽的要素と曲想の関わりを理解しながら、曲全体を味わって聴くことができるようにしていく。

## 1. 研究協議を経た成果と課題

### ●手立ての場面を中心とした子供の姿や教師のかかわりについて

教師と子供の言動	観察者の分析と代案
<p>T: はじめます。前回どんなことをやったか覚えていますか。                      C: 金管楽器!                      T: それらをあわせたのをなんていいますか。                      C: オーケストラ。                      T: まずは聞いてください。                      C: イエーイ。                      曲をかける                      C: シンバルに合わせて体が動く。                      C: リズムに合わせて指を動かす。                      T: という曲でした。さん拍手。曲をきいてどんなことを思ったかな。                      C: 主役がバイオリン、すごいでできた。                      C: 曲の高低差が激しい。                      C: うん。                      C: 戦いの曲が繰り返されている。                      C: バレードにかかっていそうで、スタッカートやおとのかさなりがあった。                      C: おとのつよいところとよわいところがあった。                      C: 強弱                      C: 最後に音大きかった。                      C: たぶん大太鼓だと思うけど大きな音があった。                      C: 大太鼓シンバル                      T: 祝典序曲という曲のすごいところを見つけてもらいたいと思う。                      すごいと思うところに手を挙げて。                      C: 何回も?                      T: 人によっては何回でも大丈夫、1回も大丈夫。いつも言っているけど人によって感じ方は違うので大丈夫。もう1度かけます。                      大きい音のところで手を挙げる児童多数。                      小さな音でも手を挙げている、。音のかさなりが大きいところC両手を挙げる                      どういうところで手を挙げた?                      C: 迫力                      C: クレッシェンド                      C: 楽器                      T: みんなの動きをみせるね。こうめいさん早速。                      C: 初めから                      C: ゴジラみたい                      C: 王様                      T: はじめからどうしてサビみたいに感じたの?                      さんも手を挙げたね。                      C: 高い音...低い音。                      C: 強弱                      C: 木管楽器が多かった気がする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回学習した、オーケストラの楽器の種類や音色に触れる時間を増やし、子供たちの中で曲を聴く視点を「楽器」となるような導入にするべきであった</li> <li>・子供の中には体を動かしながら曲を聴いている姿も見られた。「なぜ自然と体が動いてしまったのか?」と発問することで、祝典序曲の鑑賞ポイントの1つが「リズム」となる場面であった。</li> <li>・「高低差」の意味をしっかりと把握しているのか、音楽用語の整理・理解が必要。本時であれば、「メロディーの上がり下がり」。</li> <li>・「祝典序曲」というタイトルをボードに書いて視覚から祝い事で流れる曲であるということをお子におさえさせることで、イメージのブレはなくなる。</li> <li>・子供によって聴き方は様々であり、すごいと感じる部分は多数になっても構わないが、本時で「音色」に着目させるのであれば、『一番すごいと思ったところをみつけよう』という課題設定する方法もあった</li> <li>・改めて、曲のタイトルを伝えることで、祝典とゴジラではイメージが異なることに気付かせる。</li> <li>・「すごい」と感じる理由が「音色(楽器)」「強弱」「音の上がり下がり」と様々な視点から考えていた。視点を1つにすることで、よ</li> </ul>

C: コントラバス  
 C: 先生が持っている楽器伸ばすやつ。  
 C: トロンボーン。  
 T: 今の部分, ここでした。  
 C: すごい長いね。  
 T: ここで手を挙げた人いるね。まさとさん。  
 C: クレッシェンド  
 C: 同じです・  
 T: 手を挙げた人たくさんいるね。はるかさん。  
 C: 迫力  
 T:           さん  
 C: 音が大きくなったりしている。  
 C: ほとんど同じ。音の高低差。高低差が  
 C: 音が重い  
 C: なんて重くなったんだろう。  
 C: 低い。  
 T: どんな楽器を使ったの?  
 C: 大きい楽器。  
 T:           さん。

C: フォルテがあった。  
 T: いきなり高くなった。音は一緒? 低くなったところと高くなったところがあった  
 C: ピッコロ  
 T: 音高くなったよね。ここなんですよ。クラリネットもなっています。  
 C: ずっと手をあげていた。  
 C: ゴジラみたい。低くなってズドン! 同じ音が全て繰り返されている。  
 T: 迫力がそれぞれで違う。  
 ここめっちゃ手が挙げたね。  
 C: いろんな楽器があるから迫力を感じる。  
 C: シンバル  
 C: 音がかさなっている。  
 C: たぶんちっちゃい楽器。  
 C: はくりょくか、ズキューン。  
 C: テンポが速い。  
 C: くり返し  
       手を挙げている  
 C: 小さい楽器もあったけどそれはそれで迫力があった  
 C: スラーがあった。  
 C: フォルテフォルテ  
 C: フォルテッシモ

C: 高いところ低いところがある。  
 T:           さん両手を挙げている  
 C: クライマックスだと思って盛り上がっていた。  
 C: だんだんと音が大きくなっている  
 T: 後半どんな感じだった  
 C: 逃げている  
 C: 戦い  
 C: ドラゴンから逃げる  
 C: ゲームのエンディング  
 ピッコロ  
 木管楽器  
 T: ここからは最後までいきます。  
 C: 迫力  
 T: なんで迫力感じたの?  
 C: かみなり  
 C: ドラゴン  
 C: ETの映画みたい  
 C: とってもテンポがはやかった。  
 C: はずんでいるような感じがして楽しかった  
 C: 全部の楽器があった  
 C: け虫が踊っている感じがした  
 C: 楽器が合わさっているから大きくなった  
 C: 主役見たい  
 C: アクセントがすごいあった  
 フォルテッシモ  
 C: 主役変わっている

り楽曲を聴き深めることができる。

・音が重くなるのはどうしてなのか、子供の気付きの言葉で理由を明確にしようとしている姿

・本時の目指す姿につながる発言。迫力を感じる理由について、           さんの発言をきっかけとして、子供たちが迫力を感じる根拠を明確にしようとして子供同士で LF を発揮している。

・リズムと自分のイメージをつなげている発言

・全ての楽器が出てきたからこそ迫力がさらに増していったということや、本時の楽曲ではいろいろな楽器が様々な場面でメインとなって出てくるということに気付いた発言。

## 2. 評価改善の見直し

Before

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) <u>手立て</u>	◆留意点 ※評価
<p><b>1. 課題を設定する。</b></p> <p>■前回、どのような音を聴いたかな。 今回は、オーケストラで演奏された曲を聴いてみるよ。*祝典序曲 1回目</p> <p>●曲を聴いてみてどう思ったかな</p> <p>・華やかな曲だと思った ・明るい曲だと思ったよ ・今まで聴いてきた曲と違って、とっても盛り上がっているような曲だなと思った ・オーケストラで演奏されている曲ってすごいなと思った</p> <p>●オーケストラの何がすごいと思ったのかな</p> <p>・楽器がいろいろと出てきたところとか・・・ ・重なっていたところとか・・・ ・たくさんすごいところがあった・・・</p> <p>■聴く中で、「この部分がすごい」と思ったところを見つけて、みんなに伝えてみよう</p> <p style="text-align: center;">祝典序曲のすごいところをみんなに伝えよう</p> <p><b>2. 再度曲を聴くことを通して、祝典序曲のすごいところを見つけ、友達に伝える。</b></p> <p>■曲を聴いてみて、すごいと思ったところは手をあげてね。*祝典序曲 2回目</p> <p>■どこに手をあげたのか、動画を見ながら確認しよう*動画確認&amp;祝典序曲 3回目</p> <p>●どうしてこの部分(手を挙げたところ)がすごいと思ったのかな。III</p>	<p>◆楽曲を鑑賞することを通して、オーケストラで演奏された楽曲が今までに聴いた曲と比べて、様々な楽器の音色や重なりを聴いたり、迫力を感じる事ができる等「オーケストラのすごさ」を感じたり、子供たちはオーケストラの「何が」すごいとなるのかを考えたりすることができるようにする。I</p> <p>◆音楽室内には、各楽器がメインとして出てくる場面の一部を表した「旋律の楽譜」を掲示している。子供たちが今どの部分を聴いているのかが見えるようにする。</p>
<p>【ファンファーレ】</p> <p>・だって、金管楽器が出てきたから。 ・それだけじゃなくて、どんどん楽器も増えてきたからだよ。</p> <p>【提示部(第1主題)】</p> <p>・木管楽器が出てきて、きれいだなと思ったから。 ・実は同じ旋律を弦楽器でも演奏していることがわかったよ。弦楽器だから優雅な感じに聴こえたよ。</p> <p>【提示部(経過部分~第2主題)】</p> <p>・また金管楽器が出てきたんだけど、最初と違って弾んでる感じ。 ・旋律の楽譜も見ると、スタッカートとアクセントがついているよ。だから弾んで聴こえたんだ。 ・いろんな楽器が交代しながら出てくるのもおもしろいな。</p> <p>【中間部】</p> <p>・太鼓の音も聴こえてきて、楽しい感じがするよ。 ・さっきと同じ旋律がもう一回出てきた。でも楽器は違うなあ。</p> <p>【ファンファーレ~終結部】</p> <p>・最初と同じようなファンファーレがあっけいかっこいい。 ・最後の方だから、たくさん楽器が重なってるよ。だから盛り上がっているのかも</p>	<p>◆祝典序曲のすごいと思ったところがどこで、誰が手をあげたのかを把握するために iPad のビデオを使用する。その後、動画の音源を通して楽曲のすごいところを見つけていく。</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>◆子供から出されたすごいところを板書に整理する。</p>
<p><b>3. 楽曲全体のおもしろさに気付く。</b></p> <p>●1回目に曲を聴いた時とくらべて、祝典序曲のすごいところをたくさん見つけられたかな</p> <p>・たくさん見つけられたよ ・もう一度曲を通して聴いてみたいな</p> <p>■では、みんなが見つけたすごいところを感じながら、もう一度聴いてみよう*祝典序曲 4回目</p> <p>■祝典序曲のすごいところがたくさんわかったね。すごいと思ったところを言葉でもまとめてみよう</p> <p>・同じ旋律が繰り返し出てきているのに、楽器が違うだけで、より面白く聴こえたな ・オーケストラで演奏されているから壮大に聴こえたよ</p>	<p>◆自分の考えや友達への考えに触れることを通して、音楽的な視野を広げていくようにする。</p> <p>※(思・判・表)</p> <p>オーケストラの様々な楽器の音色、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。</p>

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) 手立て

◆留意点 ※評価

**1. 課題を設定する。**

■前回、どのような音を聴いたかな。

・オーケストラで演奏された楽器の音だよ

■どんな楽器があったかな？

・木管楽器・金管楽器・打楽器・弦楽器があったな

■今回は、それらの楽器で演奏された曲を聴いてみるよ。＊祝典序曲1回目

●曲を聴いてみてどう思ったかな

- ・華やかな曲だと思った
- ・明るい曲だと思ったよ
- ・今まで聴いてきた曲と違って、とっても盛り上がっているような曲だなと思った
- ・オーケストラで演奏されている曲ってすごいなと思った

●オーケストラの何がすごいと思ったのかな

- ・楽器がいろいろと出てきたところとか・・・
- ・重なっていたところとか・・・
- ・たくさんすごいところがあった・・・

■聴く中で、「この部分がすごい」と思ったところを見つけてもらおうよ。その中でも特に「聴こえてきた楽器の音」に注目して「この曲のすごいところ」をみんなに伝えてみよう

楽器の音に注目して、祝典序曲のすごいところをみんなに伝えよう

**2. 再度曲を聴くことを通して、祝典序曲のすごいところを見つけ、友達に伝える。**

■曲を聴いてみて、すごいと思ったところは手をあげてね。＊祝典序曲2回目

■どこに手をあげたのか、動画を見ながら確認しよう＊動画確認&amp;祝典序曲3回目

●どうしてこの部分（手を挙げたところ）がすごいと思ったのかな。III

## 【ファンファーレ】

- ・だって、金管楽器が出てきたから。
- ・それだけじゃなくて、どんどん楽器も増えてきたからだよ。

## 【提示部（第1主題）】

- ・木管楽器が出てきて、きれいだなと思ったから。
- ・実は同じ旋律を弦楽器でも演奏していることがわかったよ。弦楽器だから優雅な感じに聴こえたよ。

## 【提示部（経過部分～第2主題）】

- ・また金管楽器が出てきたんだけど、最初と違って弾んでる感じ。
- ・旋律の楽譜も見ると、スタッカートとアクセントがついているよ。だから弾んで聴こえたんだ。
- ・いろんな楽器が交代しながら出てくるのもおもしろいな。

## 【中間部】

- ・太鼓の音も聴こえてきて、楽しい感じがするよ。
- ・さっきと同じ旋律がもう一回出てきた。でも楽器は違うなあ。

## 【ファンファーレ～終結部】

- ・最初と同じようなファンファーレがあっただけいい。
- ・最後の方だから、たくさんの楽器が重なってるよ。だから盛り上がっているのかも

**3. 楽曲全体のおもしろさに気付く。**

●1回目に曲を聴いた時とくらべて、祝典序曲のすごいところをたくさん見つけられたかな

・たくさん見つけられたよ ・もう一度曲を通して聴いてみたいな

■では、みんなが見つけたすごいところを感じながら、もう一度聴いてみよう＊祝典序曲4回目

■祝典序曲のすごいところがたくさんわかったね。すごいと思ったところを言葉でもまとめてみよう

- ・同じ旋律が繰り返し出てきているのに、楽器が違うだけで、より面白く聴こえたな
- ・オーケストラで演奏されているから壮大に聴こえたよ

◆導入部分では、前時までの学習してきたオーケストラの楽器に触れながら学習を進める。

◆楽曲を鑑賞することを通して、オーケストラで演奏された楽曲が今までに聴いた曲と比べて、様々な楽器の音色や重なりを聴いたり、迫力を感じることができ等「オーケストラのすごさ」を感じたり、子供たちはオーケストラの「何が」すごいとなるのかを考えたりすることができるようにする。I

◆音楽室内には、各楽器がメインとして出てくる場面の一部を表した「旋律の楽譜」を掲示している。子供たちが今どの部分を聴いているのかが見えるようにする。

◆祝典序曲のすごいと思ったところがどこで、誰が手をあげたのかを把握するために iPad のビデオを使用する。その後、動画の音源を通して楽曲のすごいところを見つけていく。



◆子供から出されたすごいところを板書に整理する。

◆自分の考えや友達の考えに触れることを通して、音楽的な視野を広げていくようにする。

※（思・判・表）

オーケストラの様々な楽器の音色、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。

【発言・動画】

